明治廿八年四月三日印刷
明治廿八年四月五日發行

# 婦人衛生雜誌

第六十五號

私立
大日本婦人衛生會

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

# 大日本婦人衛生雜誌
## 第六拾五號
## 目次

### 講演


●看護に就て　醫學士　中根正次君

●浴湯の話　宮本仲君

●首下り病取調報告


### 衛生叢談


●雜件數件

●大日本婦人衛生會總會


### 廣告數件

---

# 大日本婦人衛生雜誌
## 第六拾四號
## 目次

### 講演


●日本婦人運動の話しに就て（前號の續）　ドクトル　入澤達吉君

●浴湯の話（前々號の續）　宮本仲君

●首下り病取調報告（前々號の續）


### 衛生叢談


●漢法醫復活案●日本兵の耐寒力●凍傷者の實況●世界有名の義足師●第一軍の衛生近情●無病長壽の法●軍中パンと米食の利害●間食の弊●戰爭後の衛生●インキと火傷●負傷兵の繃帶●軍隊糧食發明●赤痢●赤十字社病院の救護●凍死●聾と消化器病●天然痘發生の通知●流行感冒●婦人衛生會講演●大日本婦人衛生會々況●役員の御招待●廣告數件


Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

婦人衛生雜誌第六拾五號
(明治二十八年四月五日發行)

## 講演

### ●看護に就て(十一月十日於富士見倶樂部開婦人衛生會例會)

醫學士 山根正次君演説

私は相替らずの山根正次で御座います。追々時候も寒氣に向ひまして、世上には感冒が大分在るやうで御座いますが、幸に皆樣は御健康にあらせられまして、何より御芽出度存じます。流石は婦人衛生會の會員だけあらせられまして、平素の衛生が能く行屆いて被爲居る丶故で有らうと思ひます。一人が健康なれは、一家の者は皆健康で有りまする。一家が健康で有りますれば、一國も從ッて健全で有りまする。ソレ故個人的衛生と云ふものは、隨分大切のもので有りまする。

扨私は、實は先月演説を致しまする順番で有りましたが、少し用事か御座いまして、無據御斷りを致しまして、遂に本日演説を致さなければならぬやうな次第に相成りまして、出席致しましたので有ります。私は是れまで本會よりは毎度御優待を蒙りまして、盡さねばならぬ義務の澤山あるにも拘らず、未だ其義務の一つをだに盡すことの出來ませぬのは、甚だ汗顔の至りで有ります。積り積りました御厚意の御禮として、今日は此席に於て、何か一つ有益の御話を致さねはならぬ次第になりました。併し私は別段に善い考案もないので、面白き演題を擇む事が出來ませぬで有りました。且ツ又當日非常に多忙で有つて、面白き御

## 看護に就て



話を調べる暇も御座りませせなんだ。去りながら天性利發の者で有りましたならば、即席の御料理で好い御咄も出來ませうが、ソレとても私の如き愚昧の者は迚も及び難い事で有ります。其上本日は他の御方の御演説も有ると云ふことで御座いましたから、大概は其方に任して、私は簡單に御話をして僅かに責を塞ぐ積りで有りました處が、本日急に他の演説さるゝ方が差支て出席が無いに因り就ては私に少しく長く御話を申上ぐるやうにとの御頼みでありましたが、材料の乏しき處に長くと云ふ御望みはすこし迷惑……ではないが實は困ッて居るので有ります。殊に皆樣方は衛生上にはなか〳〵御專門故、私の申すことなどは面白くもなく、味ひもない詰らぬ事と思召さるゝで有らうと思ひます。殊に私は訥辨でも有り、亦斯う云ふ席での御話は至て不慣でありますから、恥かしうて臆する處もありまする。デ今日は看護と云ふ事に就て御話を致します。唯今承れば、先月の御總會に、田代義德氏が夫卒の救護と云ふ事に就て御話をなすつたと云ふことで有りまするから或は重複することもあらうと思ひます。其邊は豫め御斷りを致して置きまする。私が此前に御話いたしたときには、下婢の御土產には鍋、御孃樣への御土產には御白粉、御小兒樣には玩弄物、鉛筆などを差上げましたが、今日も亦私の役所で試驗をしました玩弄物を、御歸りの節、御家へ御土產にもなりまするから、一つ宛差上げまする、否御覽に入れて皆樣の御注意を惹かうと思ひます。小兒の看病をしまするには、玩弄物も隨分必要で有りまするから、看護の事を御話するに先ッて、

暫く玩弄物の店を開かうと思ひます、何卒御買ひ求めにならむ事を希望致します

（玩弄品數十種を陳列し別に色素を方拆した

（試驗管數種を並列し示さる）

斯くの如く玩弄物には小兒が好む處の色を種々用ゐて有ります。此前御話しました時にも、玩弄物の色の中には毒物が雜ッて居ると云ふ事を御注意して置きましたが、斯樣に美事な立派な色は、小兒が好むもので有りますから、皆玩弄物には塗ッて有りますが、此黃色とか赤色とか紅色とか紫色とか云ふ、美麗な色素の中には皆毒物が含まれて居る。此玩弄物の中に毒の無いものは一つも有りませぬ。ソレで此玩弄物には一々番號が附けて有りますから、後で御覽になれば解りますが、此美しき黃色などには恐るべき砒石を含んで居ります。又此（鬼面）鬼の面に附いて居りまする綠色は「亞砒酸銅」と云ふ毒物で有ります。亞砒酸は非常な毒で、鼠取藥などに這入ッて居るのも此れと同じもので有ります、此れは（大黑の面）面部の白く光るのは、白粉の這入て居ると鉛とが塗ッて有るので御座います。これには鉛が含まれてをります。小兒と云ふ者は、是等の玩弄物を授けますると、直ぐに舐りますから、氣を附けねばなりませぬ。是等の玩弄物を一々撿査して、其毒物も取ッて有りまするから（玻璃管に收めたる毒液數種を示さる）後で御覽を願ひます。是等の事も追々取締りを付け樣と思ひますが、小兒が斯う云ふ奇麗な色を好くと同時に世の商人が種々の毒物を含有する色素を以て、玩弄物を着色致します。昔は色素の中に斯くの如き毒物は有りませんでした

が文明が進むと同時に、人智が進んで來まして、種々の工風をして、チヨット容易き試験をしても斯様に澤山の毒物を含んで居るやうな色素を以て玩弄物を塗ッて置きます。此所に在りまする玩弄物は皆澤山に毒を含んで居りまするから、後刻で御覽になッたら宜しからうと思ひます。ソレで小兒は、玩弄品の中に斯くの如き毒物を持ッて居りまする中には、何時之を舐るか解りませぬから、此玩弄物は小兒に取ッては非常に危険で有りまする。殊に害を受けまして、病氣を發しました以上は、其原因は何から來たか解りませぬから、常に能く注意しませぬと、ソレ等の事から種々の病氣を惹起す事が往々有りまする、ソレで是れだけ店を出して置きまするから、御歸り掛けに御買ひ上げを願ひます。

扨、愈々本題に移りまするが、時節柄衛生上の談話などと云ふものは、御婦人様方にしましても、余り御好みでは有りませぬ事と存じます。ソレよりは耳新しき此頃の戰爭話は彼の旅順口を占領したとか、或は平壌を畧取たとか、九連城を陥落したとか云ふ御話の方が、愉快の事と思ひます。併又私共が此際に大に杞憂を抱いて居りまするのは、演題にも有りまする通り、則ち看護の事で有ります。「霜を履んで堅氷到る」とか、「人の憂ひに先ッて憂ふる」とか、「人の樂みに後れて樂む」とか云ふことは、正に志士仁人の本領で有りますデ私は今日何故絶叫するかと云へば夏以來清國と大戰爭が始りまして、漸々今日まで引續いて今日迄止みませぬ。然して我日本の軍隊は、一軍と二軍と、海に陸に進んで深く敵地に入りまして、

看護に就て

戰爭には度々勝ちましたが、非常に困難辛苦を嘗めらるゝ事と思ひます。私の考へでは、此の分で永く押し參りましては、我々の最も敬重すべき軍隊の中に惡疫でも流行せねば宜いがと氣遣ふて居ります、何故なれは、第一彼の地は風土季候に激變が有ります。第二彼の地は氷寒凛烈、非常に寒さが强う有ります。第三土地は極めて不潔で有ります。第四軍隊の食物不良で有ります。第五甚だ疲勞で有ります。永い間の事故勞れて居ります。是等の原因が有りまするから、戰爭中のみならず、戰爭の濟んだ後にまで惡疫の流行することが有りはせぬかと思ひます。戰爭後に惡疫の流行するは是れまでの經驗に徵しても著しき事で、近き例を申しますれば、明治十年の役、即ち西鄕との戰爭に方りましても、戰爭の濟んだ後で、大變に虎列剌が流行しました。ソレから又昔佛の戰爭中には赤痢、腸窒扶斯疱瘡等が流行致しまして夫れか爲め軍隊がたいそういたみました。明治七年には日本の軍隊が、臺灣に參ッて、軍人が大に臺灣熱に冒されて殪れました。是等の點より考へましても、私の今日御話せんとする看護の事も、强ちに時節柄必要の無い事でもないと、自慢ではないが……私は爾う思ひます。

扨て、病人を看病すると云ふ事は實に容易い事では有りませぬ。甚だ五月蠅い、面倒なる仕事で有りまする。御承知の通り。總へての病人には老人も有りまする、御小兒さんも有りまする、又壯年の者も有ります。殊に男性女性の區別、御婦人と男子とは看護するにも、種々の取扱方が違ひます、老幼婦女子に對してはソレ〳〵看護の仕樣が

有りまするから、野菜は魚類の代りにはなりませぬ。又病氣にも色々の種類が有ります。俗に四百四病と云ひますが、實際はなか〳〵左樣な些少なものでは有りませぬ。一つの病氣でも臆病と云ふ位ゐで有りますから、なか〳〵澤山有るのでございます、殊に此臆病と云ふ病氣が有ッては、看護と申す大切の役目は盡す事が出來ませぬ。啻に看病のみならず天下の事は何ことも臆病と云ふ病氣が有つては往けませぬ。故に第一に臆病の療治をしなければならぬ。臆病を悉く治療した上で看護をしたいと思ひます。殊に臆病では出來ないのは、傳染病の看護で有ります。則ち虎列刺、赤痢、腸窒扶斯、發疹窒扶斯、實扶垤里亞、黑死病、肺勞、猩紅熱とか、或は腦病、呼吸器病、精神病、若くは皮膚病、眼病等の種々雜多の病氣が有ります。斯くの如く恐るべき惡病患者を引受けて、是れを追却くるには良大將が無ければ、此病氣を追逃がす事は出來ませぬ。然らば此大將には何人を撰んだならば宜しいかと云ふに、私は此看護を依賴する者には、御婦人を擇びたいと思ひまする。則ち病人の看護は御婦人に限ると申したいので有ります。何故なれば御婦人と云ふ者は、性質溫和で、物事に熱心で有りますから、從ッて病人なぞを能く取扱ひ患者に對して殊に憫み深く、深切で有ります。故に私は看護に婦人を擇みまするは、至極適任と思ひます。實に看護をするものは婦人でなければならない。併男子でも深切で無いとは言はない、正次の如き深切の男も有りまする……。ソンな事はドウでも宜しいが、前に申す通り、看護は婦人が適任で有ると云ふ事は確かに信じて疑

ひませぬ。然して看護は婦人が適當で有ると云ふ事は、今日では大分世の中に解ッて來まして、明治十八年の頃より、東京慈惠醫院に於て看護婦養成と云ふ事を思ひ付きました。ソレから續いて帝國大學の第一醫院に於ては、明治二十二年十一月より看護婦を養成することになりました。赤十字社に於ては、明治二十三年四月より看護婦の敎育に取り掛り既に卒業したる處の看護婦が世の中に出て、看護に從事致して居りますので、世の中の不幸なる病人は此看護婦の出來たる爲め大層な仕合せを得て居ります。昨日私は今日の演題に看護と云ふ事を思ひ付きましたから、直樣大學並に赤十字社に電話を掛けまして、創業以來今日までに卒業した看護婦の數を聞き合せました處が、慈惠院は明治十八年十一月より今年までの卒業生は六十四名で有ります。年々の募集員が幾人かと云ふに、補充員十五名で有ります。而して現今修業中の者が二十名在ります。ソレから大學の第一醫院に於ては、明治二十年の十一月より本年までに百五名の卒業生が有ります。而して每年二十名乃至二十五名の生徒を募集致します。現今大學第一醫院に於て看護に從事して居る者が七十名之に附屬する病人所謂下手間と云ふやうなものが百名ばかり居ります。大學では最初看護婦を養成するに當ては英國の婦人が看護長となッて居りました。其看護長たる英國婦人の名は「フェッ」と申しました。此婦人が看護長となつて敎授致されました。赤十字社では此看護法を定めましてから、第一回に(明治二十三年四月)募集したのが十名で有りました。其後明治二十三年十月に九名募り其次に十

## 看護に就て



二名、八名、八名八名、十一名十、十一名、十五名と募集しまして、其中卒業生が八十四名事故、或は病氣の爲めに退學せし者が併せて八名程有りました。サウ云ふ風に慈惠醫院、赤十字社其他大學に於ては看護婦を養生して居ります。其他の病院に於ても看護の事は思ひ〳〵に養成しつゝ有る事と存じます。私が嘗て歐洲各國に參りました時に各處に於て看護婦の養成法なども看ましたが、就中其二三を申しますれば、佛西蘭巴里に慈惠的に建設されて在る、貧窮人の兒女を預ッて教育する處則ち「オフエリーナ」と云ふ宗教的の學校が有ります。(佛蘭西巴里などには貧民の兒女を教育する尼寺が乃ち「オルフエリーナ」が澤山に在ります、此學校は有志の義捐で維持して居りますので、此處に於て裁縫其他種々の事を教へますが、長ずるに及んで、此者達が人の依賴に應じて、看病人に雇はれて出ます。是れは隨分便利な事で有ります。殊に宗教的に教育されて居りますから、事に當て勉强で、忍耐力の强い事は、他に其比を見ませぬ。我邦に於ても貴婦人方の慈惠に因て、貧民の兒女を教育して居られますそうでありますが、是等の者にも看護の事を教育して置きまして、長ずるに從ッて、人の依賴に應じて看護に雇はるゝやうに致したい、何卒將來はサウ云ふ事になるやうに願ひたいと思ふので有ります。左すれば其兒女等も、慈惠を以て慈惠に報ずるので有りますから、至極結構な事と思ひます。ソレから又貴婦人方は、看護の事を御覺へになつては、ドウかと云ふに、私は矢張り貴婦人方も看護の事は少しは御心得になッて置かれて宜い事で有らうと思ひます

併ながら素より前に申した貧民の兒女をば看護に熟練はしむるのとは、自ら目的は違ひます。看護は如何に慈惠的の仕事とは申せ、貴婦人方に、何處其處に病人が在るから、看病が願いたいと云つて、其處に御出でなさらるゝ譯のものではないが、赤十字社病院、慈惠醫院等の看護長となり、監督長となさるゝは甚だ宜しい事と思ひます。否貴婦人方に向ッて斯くの如き監督長とか、看護長とか云ふものになッて戴きたいと思ひます。看護と云ふ事は、何故左程に必要で有るかと云ふに、身尊きより卑きに至るまで、人各、孤立では有りませぬ。父母も在り、兄弟も在り、姉妹も在る、苟も家内眷族の在る以上は一旦不幸にして疾病に冒さるゝ者有りたる時は、健康なる者は、義務として其看護に盡さなければならぬので有ります。而して此看護の事は醫師の方に連絡致して居ります事で能く分拆をしまするど、矢張り仁術で有ります。故に貴賤上下を問はず、誰れでも看護に從事するはよい事であります從事するに當て、第一に心得て居るべきは慈仁と申す事だろうと思ひます。獨逸の「ビルヘム」大帝の皇后が、千八百七十一年、即ち佛蘭西と獨逸の戰爭の時に建てられました「アオグスタ」病院或は呼んで皇后病院と申します。此病院は皇后樣の御手許金で戰時設立されましたので頗る、莊觀で、常に澤山の患者が其病院に往ッて、治療を受けて居ります。私も其病院に度々通ふて、外科の治療法なども見て參りましたが、醫師は彼方の大學の教授などが參ッて療治を致します。此皇后病院の看護長は誰れかと云ふに、某伯爵夫人で有ります。其看護長たる伯爵夫人が

常に病院に來て居ッて、治療をなす時などには、矢張り手傳も致されます。其他看護長の下に屬する者の中にも、隨分貴婦人方が大勢居られます。其他癲狂院、並に公立病院の如き、大きい病院には皆貴婦人方が慈惠的に、看護長などを致して居られます。澳太利、伊太利等に於ても、貴婦人方が慈惠的に看護長、或は看護人となッて居られます。則ち家政に關係の無い方々、若くは未婚の令孃、美しい御孃樣や奥樣が皆看護に從事して居られます。ソレから又早く良人を亡くした處の寡婦などは、皆サウ云ふ處に出て、慈惠的に働いて居る。斯くの如く歐羅巴に於ては、貴婦人方が惠慈の爲めに下等なる業に働いて居られます。流石に歐洲各國は文明國と自慢するだけあつて、衛生の事なとは、最も注意が屆いて居ります。全体衛生の能く行き屆いて居るのは、即ち國の文明たるを代表するので有ります、實に看護の事は考ふれば考ふる程、大切の事で有ります。然るに日本に於ては、ドウかと云ふに、此間新聞紙を觀ました處が前の海軍大臣、今の樞密院顧問官、仁禮子爵夫人の如きは今回赤十字社の看護長となッて、廣島に參られたと云ふことで有りますが、私は之を聞いて、實に感服に堪へませぬ。將來とも斯くの如き美擧の之に止まらず、續々あらむ事を希望致します。

是れより私は、患者を看護するに就て、最も必要なる事を、皆樣方の御注意までに申上げて置きたいと思ひます。

デ私は、昨晩看護の事を御話仕樣と思ひましたに就ては、皆樣は御覽になりましたか如何か存じま

せぬが、看護に就ては「ビルロード」の著書が有ります。私は豫て聽いては居りましたが、未だ一遍も讀んだ事は有りませぬから、是れを充分讀んだ上で御話したいと思ひましたが、何分閑暇が有りませぬので、今朝漸くざつと讀みましたので有りますから、此書に就て充分の御話は出來ませぬが、その讀みました事と、私の心付きました事とを搗き雜せまして畧ぼ御話致さうと思ひます。

病人を看護致しまするに就ては、第一に注意しなければならぬのは病室で有ります。病人を看護するには病室を擇ぶのが第一で有ります。病室と云ふものは、最廣く、且つ清潔なる事を要します。空氣の流通、光線の射入などは、無論能く注意しなければなりませぬ。然るに日本の狀態は如何で有ると云ふに、病人を置く處は毎でも奥の方の座敷で光線も碌々這入らない、空氣の流通の惡い家の中の一番下等なる房室に、病人を入るゝと極めてあります。是れは實に不注意も甚だしきことゝ思ひます。殊に肺とか氣管とか云ふ呼吸器の病人を空氣の流通惡く、光線の入らない室に入れて置くと、ドウしても死する病人は早く死ぬ樣な事になり、又折角癒る見込みの有る病人は、時が長く懸ります。ソレで有りまするから、病室には良い室を擇ばなければなりませぬ。殊に空氣の流通に就ては重ねて申上げますが、室内の空氣が充分でないと、我々は活動体故、空氣の中の酸素と云ふものを吸ひ、炭酸と云ふものを呼出します。此炭酸と云ふものが澤山に溜りまするると、窒息を致しまする位ゐで有りまするから、少し溜ッても呼吸器の病人などには直ぐに障ります。其上に室内を

閉て切ッて置きますると、單り炭酸瓦斯のみならず、日本の御婦人は、丸髷とか島田髷とかそれ〳〵御髪を御結ひになりまするのに、種々の油などを用ゐます。ソレ等の物より發する嗅ひも甚だしい、殊に病氣の時には、病人の身體に熱が有りまするから分泌物の分泌よりして一種特別の臭氣が有る其他病室には時として、排泄物なども有りまして、惡い嗅ひが致しまするから、空氣の流通を能くしなければならぬ。惡臭を消すには、香と云ふ燒物も有りまする、歐羅巴にも「キヨルチレル」水と云つて好い匂ひの香水が有ります。ソレを能く燒けたる十能に入れると、非常に好い匂ひで、惡臭を消すのは最も良いもので有ります。

ソレから病室の温暖と云ふものが、激變しては往けない。何時でも一定して居らなければなりませぬが、是れは日本風の家では少しく六ヶ敷いだらうと思はれます。煖爐の附いて居る室なれば、常に温度を一定して置く事が出來る、則ち日本で通常用ゐまする華氏の驗温器に因て、六十度の温暖を要します。併ながら日本では室内を暖めまするのに通常は火鉢を用ゐますが此の用ひ方に注意しなければならぬ。火鉢は酸化炭素が立ちまして、害が有りますから、若しも煖爐の無い家で、火鉢で室内を暖めやうと思ふならば、黒い炭を入れて、直ちに其室で起しては往けない、次の間に於て、炭を眞赤になるまでに起しまして、其室に持つて來て暖を取るが宜しい。ソレならば火鉢でも差支有りませぬ。

又室内の空氣の餘り乾燥するのは宜くないから、若しも餘り乾燥して逆上するやうなときには、鐵

瓶を置いて蒸氣を立たしむるとか、盥に湯を入れて置くとかすると、大へんに宜しい。殊に肺に病氣の有る人などは空氣に幾分か濕氣が無ければならぬから、前の方法に因つて、空氣の乾燥せぬやうにするのは大へんに宜しいで有ります。

ソレから又熱性の患者は、却つて空氣の冷めたい方が宜しい。サウ云ふ時は窓を開けて置かねばなりませぬ。殊に夏時は空氣が暑う有りまするから、冷めたい室に臥させ様と思ふ時は、夜間戸を開け置いて、朝、日の出ない中に閉めまして、其處に病人を置くと云ふやうにするのが必要で有ります。

ソレから眼病や精神病の一種に於きましては病室を殊更に暗くし其他の病人は何れも光線の射入が良くなければなりませぬ。光線の射入が惡いと、自然空氣が濕つて「バクテリヤ」などが生じ易い。「バクテリヤ」の發生を防ぐには、光線の射入が肝要で有ります、實はいろ〳〵六ケ敷申しますると室内と云ふものは一人の分丈でも三十五乃至四十五立方「センチメートル」の空氣が無ければならぬので有ります。又病室は閑靜でなければなりませぬ。殊に熱病、神經系の患者には、特に此點に注意すべき事で有ります。

ソレから、第二には夜具衣服寢臺の事に就て御話致します。一体夜具には、白色の布を用ゐるが宜しい。殊に患者の夜具には一々「シイツ」を懸けるが宜しい。着色の物は穢れ目が解らないから、不潔になり易い。天鵞絨なども汚れが見えませぬから藥が溢れても、塵芥が這入ッても少しも見えないで善くない。總べて白色の物は危險を防ぐ城

郭で有ります。白い物なれば若し汚れましても直ぐに解りますから、消毒する事も出來まする。日本では病人に幾枚も着物を着せますが、蒲團の中に在るので有りますから、衣服は餘り澤山着ないでも宜しからうと思ひます。日本には白い浴衣と云ふものが有りますから、之を着せて置きますれば、汚穢たら洗濯するなり、熱湯を注いで消毒するなり、自由に出來て至ツて便利で有らうと思ひます。着物は度々着換へしむるが宜しい。殊に熱病患者で發汗するものなどは、衣服蒲團を度々換えると云ふのは最も必要の事で有ります。衣服蒲團を度々換えると、ソレが爲め下熱すると云ふ事も有ります。何卒病人が萬々一有りましたならば、病人に着せたり又は病人の肌に觸れるものは、白い襦袢或は浴衣を着せて、臥さしむると云ふやうな氣を附けられん事を希望に堪へませぬ。ソレから夜具の類は能く乾燥て居らねばなりませぬ。是等の事はよく注意の上にも注意を加へないと善くありませぬ。

ソレから病人の寢床を換えまするにも、いろ／＼抱へ方が有ります、脚の痛い病人も有れば、脊部の痛む病人も有る、ソレ／＼に動し方も違ひますから、ソレ等の事は此書物「ビルロード」の中に圖が有りますから、後で御覽になりましたら宜しからうと思ひます、此持ち運びなどに就ても、氣を附けなければなりませぬ。

ソレから患者の身体を清潔にすると云ふ事は必要中の最も必要で有ります。ソレに引換へて日本の從來の風習は、患者のからだを拭ふと云ふ事が至ツて少ない常に人がからだの不潔なるを設へて、

「御前は病人の身體の樣だ」と云ふことを申します。病人のからだを度々拭くと云ふ事は非常に大切なる事で有ります。然るに日本では前に申した通り、からだを拭ふと云ふことが至ッて少ないから病人と云へば、爪は長く生え、間には穢ない垢が溜ッて居ります、首の廻りには、鍬か鋤でなければ取れぬやうな垢が附いて居ります。是等は充分に注意しなければなりませぬ。殊に頭髮に油を附けまするので、襟垢が附きまするから、毎日洗ふなり、拭ふなりして、垢を去らなければなりませぬ。ソレから口中も毎朝漱がするが宜しい。口中と云ふものは最も清潔にして置かなければなりませぬから、食後には必ず口漱をして舌なとに食物の附いて居らぬやうに、度々掃洒をしなければなりませぬ。口中を容易く清潔にするのはドウすれば宜しいかと云ふに白い麻の布に「リスリン」の溶めたものを附けて、ソレを以て口内を能く拭きまするど、奇麗になります。病氣の時には口中を漱ぐと大そうに心持ちの快いもので有りますから一日の中には、幾度も口を漱がしむるが宜しい。殊に熱性の患者は口漱をしまするど、少しは懊惱を減ずるもので有ります。

次に看護婦の最も注意すべきは藥餌の進め方、就中服用時間を守る事が肝要で有ります。此藥は、一日に何回に飲むと云ふ事は正しく極ッて居るので、藥に因り、病氣に因て一日三回に飲用する藥もあれば五回に飲む藥も有ります。之を能く守らなければなりませぬ。昔は煎藥で有りますから、飲料が多くても少なくても、格別危險の事も無かッたが、今日の藥劑は二時置きに飲むものを直ぐ

に飲んで仕舞うと云ふやうな事をしては、却てソレが爲めに、害を來たすことも有らうと思ひます、ソレ故薬を飲まする時間は、看護するものが注意しなければならぬ。今日は昔と違ひまして、丸薬散薬、水薬など丶種々の薬が有りまするから、水薬などを飲ませますには、横臥して居ると「ベッド」を汚しますから、管で飲ませるとか、或は「オブラード」で包んで飲ませるとか云ふやうに注意するのが必要で有ります。其外看護婦は醫師の手傳ひをする事がいろ／＼有ります。例之ば「蛭針」を附けるのに、容易に吸ひ附かぬ時は、砂糖の汁を附けて置くと早く吸ひ附くとか、或は血液を取ッた後は冷水で冷やすとか、或は「ヒル」が餘り附き過ぎて落ちないで困る時は、塩を附けて落すとか云ふ事は則ち水蛭に塩は、皆看護する者が致さなければなりませぬ。ソレから看護する者は日々病人の經過を記して置いて、醫師の來診するときに、之を示して注意せねばなりませぬ。サウすれば醫師が診察するから、診察する間の經過が明かに解ッて大に治療上の助けになります。

ソレから又病人の寢て居る處で、食事をする事で有ります。病人と健康の者とが食事を一處にするのは餘程危險で有ります。急性傳染病は申すも愚か、肺病の如きも一ッ處で食事をすると、肺病患者の吐いた痰を蠅が嘗めて、ソレで又食物に附く元來病毒と云ふものは、上等の顯微鏡でも容易に見出し得ざる程の小さき毒で有りますから、肉眼ではドウしても見えない、此病毒が蠅の足先きに止まつて來ます。其蠅は食物などにも付きまするから知らずに是れを食べまするると、ソレが爲め病

毒が傳染するやうな事があるかも知れぬ。實に危險極まりたることで有ります。私共も醫師の仲間でありまして、時としては病人の診察にも参る事が有りますが、先づ直ぐに病間に通りまするど、下婢や御醫師が御座ッたから、御茶を上げよと云ふて病人に觸れたまゝ手も洗はずに御茶を持ッて出る。其時に餘り快くない爲めに、飲まずに置きまするど、御茶が冷めましたらうと云つて、其茶碗に又熱い、御茶を入れ替へて出しまする。醫師は病家に御茶や御菓子を貰ひに往くのでは有りませぬから、サウ云ふ心配は無くッても宜しい。却て無理に進めらるゝと病人の前で、迷惑ながら飲まなければならぬやうなことも有ります。其時は南無阿彌陀佛と云つて飲むかも知れませぬ。

次に看護するに就て、最も注意しなければならぬ事が有ります。病氣が長くなりまするど、病人がおれまして、或は憤り易くなり、或は鬱悒することが有りまする。ソレを機嫌を取りまするのは、隨分困難で有りますが、看護する處の人と云ふものは、病人が少く無理を言ふたとて、ソンな事を言ッては往けないよと云ふて膨れた顔をするど、病氣がなほ〳〵惡るくなりますから、能い程に介抱して赤兒を取扱ふ心持で、毎も替らぬやうに笑を含んで居る位ゐにして居らなければなりませぬ。ソレ故病人を看護するに就ては、忍耐と云ふ事が非常に必要で有ると云ふ事は始終離れでも申して居ることで有ります。英國の看護婦の病人を看護することに就て、种々書き落したる書籍が有りますが、ソレを讀んで置きまするど、大そうに利益になる事が有ります。病人が眠るが否や物音

などに驚きなどすることが有ると。ソレから眠られぬやうになります。通常病人と云ふものは、二時間も安眠しまするど、後も却ッて能く眠るゝ樣になります。併ながら病人の眠りつかぬ處で物音に愕いたとか云ふやうな事があると後も兎角眠る事が出來ないやうになります。安眠を妨げるのは非常に病人に害を與へるので有りますから、余程注意をしなければなりませぬ。ソレから病人の居る次の間などで微聲を以て談話をするのは、大層に病人の感觸を惡くするもので有ります。却てわかる樣な聲で話をする方が宜しい。小さな聲で談話をすると、必ず私の病氣が惡るいに違ひないなどゝ疑ひを起して、不快を感せしむる樣な事が有りますから、注意しなければならぬ。歐羅巴などでは瓜を摩る音するも、神經家の病人には障るから、注意せねばならぬと、云ふてあります。ソレから障子の開け放しをしては宜しくない、況して日本建の家などでは「ベット」が低いから、温い空氣が上から出てゝ冷めたい空氣が下から這入ッて來て、患者の顏面に當りまするど、大へんに冷めたく感じまするから、障子の開け放しなどはせぬやうに注意しなければなりませぬ。ソレから又病人に向ッて突然に話を仕掛けては往けませぬ静かに近くに寄ッて目の覺めた時分に話をしないと愕いてソレが爲め動悸がするやうなことが有ます是れも非常に注意せねばならぬことで有ります。ソレから病人が散歩を致します時にも最も注意が必要で有ります。急に歩行ましたり。立ち止ッたりするのは惡い。少し歩行いて疲勞し、發汗したときには、其儘病室に連れ歸りたる上でなければ、

無暗に戸外で汗を拭ひなどするのは宜しく有りませぬ。

ソレで此前田代君か兵卒の救護と云ふことに就て御演説のありました後で有りますから、今日は綳帶の事抔は詳しくは申しませぬが、看護する者は自分の身も清潔にしなければならぬ。殊に病室と雖も、毎日奇麗に掃洒をしなければならぬ。而して必要品の外は成るべく何も置かぬ方が宜しい。種々の器物が有りまするど、塵芥も余計に溜ります。ソレて是れまで御話し申ました事は、誰れでも平生より一通り心得て居らねはならぬことで有ります。併なから是れだけの御話で、貴婦人方が看護法の卒業をなされたかと云ふに、なか〳〵サウ云ふ譯には往かない、斯う云ふ事は深く研究するには、矢張り專門にせねばならぬので、ソレは又大仕事で有りますが、今日私の申上げましたのは只其一斑で有ります。ソレで私も斯くの如く看護の御話を致しまして、何卒追々慈恵的に看護の事をするものが、殖える樣に致したいと思ふて、皆樣にも其事を御願致すので有ります、皆樣如何で有りませう乎、當節は御承知の通り恐れ多くも一天萬乘の我大元帥陛下には廣島に大纛を進められ、我多くの同胞は渺漠たる萬里の波濤を超へ深く敵地に侵入し野に寢ね、山に臥し、有らゆる艱難辛苦を盡して、彈丸霰の其中を、江を渡り門を破り親愛なる妻子は國に遺しまして後は野となれ山となれで、一意專心海には巨艦を破り、陸には堅城を陷れて居ります。斯くの如く命を的に出て居りまするものは、皆國の爲め、君の爲めに盡しつゝあるので御座ります。此際に當て我

く々は美食に飽き、暖衣を纏ひ、耳に三絃太鼓と云ふやうなものを聽いて、（慈惠的は特別）歡樂を盡すの場合ではなからうと思ひます。本會に御列席の方々は衛生に御熱心にして、承れば本會より、先般は袖無しの綿入數千枚を恤兵部に御寄贈にあッたと云ふ事を聽いて、誠に御奇特の事と存じて居ります。殊に夜中肩を張らして綿入を作られて、ソレが爲め眼の惡るくなつた方も有ると云ふことで有ります。併ソレ位ゐの事は軍人社會に比べて見れば誠に些かの事で有りませう…………しかし私は本會の美擧として非常に感服に堪へませぬ。

私は終りに臨みまして、書生の專ら謠ひます俗歌を皆様に御聞かせ申さうと思ひます。其曲に

女ながらもまさかの時は主に代ッて手襷

何卒此樣も此元氣を以て、イザと云ふ時は赤十字社あり戰時病院になり御出に成りて白き衣服を身に纏ひ、白き帽子を頭に戴き赤き十の字腕につけ赤き心を胸のうち、勇氣凛々又堂々と、國の爲めに不幸なる手創を負ひし戰鬪員、將校下士卒は申すに及ばず、捕虜のチャン〳〵輩に至るまで、我邦の深き恩惠に洩れざるやうに務められむことを切望致します。デ今日は誠に詰らぬ演說では有りますが、些か私の思ふ處を述べましたので有ります。（看護婦養成概表は次號）　（完）

## ◉浴湯の話　（前號の續き）

宮本仲君

浴後の心得は先きに申した通り「リーベルマイステル」氏の說に四十一二度以上の湯に入ると、其皮温を增すのみならず內部の温をも、一度から二度位温めると云ふので有りますから、即ち湯上が

りには体温が三十八度乃至三十九度位に昇るのでありますから、此際非常に風の吹き通す處に長く涼んで居ると所謂湯冷と申事かありて宜しくないから、からだの温かある中に着物を着なければならない。又「ペルッ」氏の説には、熱浴に入ッて、一度二度高まッた体温は一時間で平温に服すと云ふ其平温に服す間は、熱く感じて居るから、此皮膚の弛んで居る間に油断して寒き空氣に強く觸れると、油断から風を冒く、言ひ換て申せば油斷が風を冒かせるので、温浴が風を冒かせるのではありませぬ、浴後には必す能く汗を拭ひ去り直に御服を衣て温かに御用心成さるへき事で御座い升、假令夏時にても餘り長く浴後直に涼風に吹かるゝ時は寒冒し易き機會となつて宜しくありませぬ此事は急度御忘れなすつては往けませぬ。但し湯上りの際に冷水を桶もて肩から浴る人かありますが此は決して害にはなりませぬ唯た從來よりの慣れに任せ置きて宜しう御座ります。

却説以上御話した通り浴湯には全身浴、半身浴、腰浴、局處浴等の差はあるも汚垢を去るに從來の風習の様に種々の物にて餘り強く皮膚を摩るには及ばぬから單に石鹸、糠袋及手拭にて足ります而して入浴の時間は人々の好に任すも餘り長きは宜しからす、湯上がりには油斷から湯冷めをして風を冒かぬ様の注意をしソレから湯の温度は、從來の習慣に因て熱浴温浴何れでも宜しいが、餘り熱過ぎる湯即ち強熱浴は宜しくないから、熱湯好きの人も漸々に改めて、大概四十度内外の温（華氏の寒暖計なれば、百度若くは百五度位迄の熱浴を超へぬ様に改めるが宜しい又た熱浴に慣れた人が



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

冬時にありて頓に冷浴に改むるは惡く必ず漸を逐つて改むるを宜しとす冷布にて身体を拭擦するも亦た夏時より馴らす方か宜しい抔との注意は御忘れに成らぬ樣致度い。

ソレから特に御注意を乞いたいのは市中の湯屋に浴する時の御心得で有ります。市中の湯の注意は誠に困難で有る。何故かと云ふに渡世の風呂てをりますから誰人にても入浴する此を拒み嫌ふ譯には參りませぬ故です夫れ故傳染病などある時節には只管困却致します即ち、今年の如く或る皮膚病の流行した折には能く湯屋に往つて此に感染したかと認むるもの甚た多く小兒に於て實見致ました流行時でなしとも、皮膚に細かき膿を含んだ腫物の出來た者或は淋毒の者、或は百日咳の小兒又たは流行性眼病など一々枚擧し難い澤山の傳染性疾病であるから此れに罹ッて居るものが、時として入湯する事もある決して無いと言ふ事は出來ぬ夫れてあるから衛生警察でも湯屋自らでも此等の點には大に注意して居られます特に百日咳の如きは大人には餘り有りませぬが、小兒に多く流行して人集の中にて感染するのであります。又た當年は小兒に水胞疹、膿胞疹と云ふもの或は其の急性濕疹と混交したるもの(俗に飛び火とか或は「やぶいも」など名くるもの)か流行して皮膚の彼れ是れの部に於て爪位より大豆又は小豆位の大さなる水を含んで火脹れの樣なもの或は膿を含んだもの若くは「かぶれ」の樣なもの丶出來るのが流行つた(容体委しくお話しせねは一寸御判明にくい故茲には略します)夫れ故に私は注意して實見するに此皮膚病に罹るものは小兒中市中の湯に連れて

往ッた者に比較に多數である乎と思はれました別して注目すへきとは此レか一寸した吹出物の様で出來ると痒ゆがるのか常てあるから、一つでも出來ると、親達は此皮表の吹き出物は湯に入れたら痒ゆみも取れ且ッ癒らうと思ッて入浴さする、則ち市中の湯にでも無遠慮に否ナ素人だから其感染るのを知らずに連れて往く而して甲も乙も皆一ッ湯に入り込む。故に此湯に入ッた者は總て傳染し易き機會に接する譯てあります。ソレから此レト同様に百日咳も亦た湯屋て感染するとか澤山あります、昔は百日咳は傳染病とは思ひませなんだが今日の處では傳染病と云ふことは明か故、幼稚園の如き處ては殊更注意しなさければならぬト同様市中の湯屋ても大に氣を付けねはならぬ素人は其傳染病なるとを知らぬ故遂知らず〳〵に小兒を

此の疾に罹らせます皆様方に於ては御住宅で浴湯を御設けになるのであるから此流行病に傳染せらるゝやうな憂ひはなく、誠に結構で有りますが、御出入の者共など市中湯に浴する人に敎へて戴かなければならぬのは此等の注意ある點てす、或る種の流行病のある時は、市中の湯には幾分か病の原因ある黴菌があるに相違ない、併から、浮世風呂に浴する市中の人々はソレまで防ぐ事は出來ませぬから、成るべく百日咳の如き他の子供等と一處にならぬやう晝早く雜沓せぬ時頃を見計らひ又た其皮膚病ある人には近寄らせぬやう様に注意しなければならぬ。又た出浴の時は揚り湯を十分に遣ッて能く〳〵身体を清洗するか宜しい特に新しい創面等ある人は小サイ傷でも決して不潔の膿など付かぬ様に用心する事必要です若し自由か出來

るならは小兒なとは小さき桶を造ッて家で湯を遣はせて、此憂を避けてやるか結構であるが、若しソレも出來ないなれば晝間湯の未た新しい中に早く往くやうに注意して戴きたいと思ひます。

ソレから温浴に就て申し殘したのは、熱浴隨分治療上の必要としても用ゐ又た温浴冷浴其他全身半身局處等種々皆治療上の目的に依りて行ひますか治療上の目的は一寸御判明にくいから、申上げませぬが、唯た一言申たい事は小兒は熱い湯ゆ入れても害にあらぬか否かと云ふ事で有ります先きに申す通り大人は、從來の習慣があるから、今更强いて改めないでも宜しいが、小兒の中未た習慣の附かぬものは、皆樣が御注意遊ばして、特に生れたての赤兒は餘り熱い湯に入れてはならぬと云ふことです、赤兒の産湯は餘り熱いのは宜しくない、併し亦冷た過ぎるのも往けない。産湯の温度の不適當なのは初生兒破傷風の原因になると云ふことで有ります。例言へは獨逸の或都府に一人の流行した産婆が有りました。然るに其頃其都府に於て破傷風がボツ／＼と一年も續いて流行したとかおつたので、病院などでは醫師等が房室の内を悉く調べて清潔にし或は豫防を心掛けて、ランプの煙のやうなもの、或は塵芥などに至るまで何が原因だろうと段々調べたが一向解らない、處が或折其流行産婆が取り上げた嬰兒に此病を多く見ると云ふに心附き若しや其湯の温度に關係なき乎と心付きたる故之を調へて見るとコハ如何に其産婆か手を以て浴湯の温度加減を見ていつて程能き温の湯で有ると言ッて嬰兒の産浴に供した其浴か甚た不適當の温熱てありしとを發見された因つて恐ら



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

くソレが原因であらうと推量か付て其産婆の手を試驗しました處が、此産婆は其手に於て何時の頃より或る病の爲め乎温度を辨識する温神と云ふ知覺が非常に鈍くなつて、四度も五度も違う温を一向識別し知る事の出來ない樣になつて居りし事か判然としたソコて其産婆は遂思はす熱つ過きた産浴に初生兒を入れて一年も知らすに過した即ち其手の知覺が適當して居らなかつた爲めに之が原因を爲したに相違あるまいと云ふので、以來は産湯に必す寒暖計を用ゐさせた處が、ソレから其頃の初生兒破傷風が大に減じたと云ふ實例か有ります夫れたから、成るべく母たる人は注意して、若しも産婆が當世修業の者は大概安全ですが是れで宜からうなど丶云つても、今申した樣なる間違の無いとも疆られませんから傍らから尙は意を用ひて此時分から適當の温度に習慣を付くる樣心掛けねばなりませぬ。此れは産婆自らも亦宜しく注意しなければならむと思ひます。ソレで大概初生兒の湯は、母体の体温と殆んと同等にて三十七度内外位を良とす然れとも四十度とか四十二三度等の熱湯に嬰兒を入るゝは宜しくない。殊に初生時より臍帶の落る前後最も注意して。其都度寒暖計にて測れは尙は宜しい、決して御油斷は成りませぬ。段々申述た通り之を約言致せは浴湯は垢を流し、血行を盛んにし、排泄を催進し、新陳代謝を促かし、疲勞を回復し、神思を爽かにし、身体を温め、皮膚の機能を壯んにして寒冒を防ぐ等種々の効用あるものなるか故に健康体にも亦た或る疾患の者(假令は慢性「レウマチス」神經痛、慢性の炎症、等種々の類を患ふる人などには尤も良い)共に日々

## 浴湯の話

入浴して大に快良を覺ふるものて其浴するは毎日若くは隔日乃至二三日置きにて通常日に一回つゝあるも治療の目的には二度三度位入るともあり而して全身浴、半身浴、坐浴、局處浴、などの區別あり又た浴湯にも通常は眞水を用ふるも亦た海水塩水鑛泉湯花若くは種々の藥劑を溶したる水を以てするとあり然れとも健康人の日常は井水河水のものにて既に滿足ですソーして湯上りに注意さいすれば寒冒するとかありませぬから行浴は怠たらぬ方宜しい殊に兒童などは日々適當に入浴せしめた方が好イ併し急性病にして熱でもある時は止めるか安全ですが尚ほ醫家に問ふて後之を定むるか宜しウ御座イます或る慢性病の如きは入浴の却て利益するを見るとかあります又た湯の温度は前々に述へた樣に我か邦人は強熱浴に慣れて居る故に之を害とは言ひ難い去り乍ら餘り強劇の熱浴は結構とも申されぬ然れは私は我か邦人には熱浴と温浴との二樣中人々の適好に應して宜しいと存します冷浴微温浴は常人の好まぬ所強熱浴劇熱浴は醫療上の目的ならねば可成的避くるを佳とす冷水浴の効能は近頃世人の多く知る所てありますなれ共身躰の弱い方々が一頓に從來温熱浴の習慣を急變しては或は其の過劇に堪へぬ事なしとも期し難い殊に「ベルツ」先生も熱浴は害なきのみならす反つて大なる利益があると云はれました位ですからお互日本人は醫治上の目的で無い已上は別して古來の習慣として毫も害の無い事物を強ゐて改むるにも及はぬと存します私は保守主義かも存しませぬか急遽に習慣に背くは好くないと存します併し漸々に惡きは捨て改良に就くはれ互の勤め

てありますから尚ほ宜しく御考を願ひ升入浴には何れの種類の浴ても浴時の注意を怠りては皆な禍害を免かれ難イから此をは決して輕々に思召されぬ樣に冀望致し升。

長々とつまらぬ事を陳へて御退屈を省みず恐入りました入澤君か見ゑました同君か代つて良い御話しを仕て下さる筈で御座い升から私は是れで御免を蒙り升。

（完）

# 衛生叢談

## ●雜件

◎門司港のコレラ　過日門司港に於て一時眞症コレラ十八名發生し尚又宇品港にも發生の摸樣ありとの事にて中濱技師其他數名出張せられたりと

◎傷病患者總計　日清交戰以來即二十七年七月八日より二十八年三月二日まて廣島豫備病院にて收容せし患者は一万一千七百九十二人内全治四千四百二十九人轉送患者四千四百三十二人歸鄕療養患者三十九人死亡四百六十五人事故ありて退院患者二百十八人現在患者二千二百八人ありといふ

◎金洲の惡疫　目下金州附近は惡疫流行の徵あるを以て民政廳は市街家屋の清潔法を行へりといふ

◎戰死流行病の調査　近來各戰地に流行病のある如く傳說すれとも衛生の注意至れるを以て流行病猖獗の摸樣は毫も認めずといふ

◎看護手の速成　從來看護手は六ヶ月間を以て

卒業なるが戰時の今日あれば二ヶ月を以て卒業せしむるといふ第七回修業生三十八名は五月下旬には卒業すべしといふ

●毒草の分拆　埼玉縣の某村に於て芹樣の草を食し中毒の爲め死亡せしが此頃該草を大學に取り寄せ調査したるに同草はヲホゼリ又はドクセリ或はヲニセリと稱し本邦にも多く產出するものなりといふ多量に食するときは直に死亡する程の毒物を有すといふ恐るべきなり

●流行病　横濱及東京にては此頃インフルエンザ腸窒扶斯流行の兆ありと御注意緊要

●傳染病と鰻　鰻は肺結核赤痢等に特種の效能ありと說くもの少からさるを以て某黴菌學者は左の關係を調査せしに有效のものにあらざる事明白なりしといふ

●實扶垤里亞の療法　獨逸人リヨフレル氏の發明により血淸潔法により免疫することを得るに至りたり醫學の進步又驚くに堪へたり

●特志　駿河臺鈴木町產科婦人科病院にては軍人軍屬の家族をば無報酬とし貧民には施療券を與るよし又赤坂丹後町の女醫大村のぶ子も同樣施療するとの事なり

## ●大日本婦人衛生會總會

三月二日午后一時より麴町富士見町五丁目富士見倶樂部に於て總會を開く總裁　小松若宮御息所殿下にも御臨場被爲在會する者大凡五十餘名席定まるや醫學士坪井次郎君には諸種の人躰掛圖を示し本日より生理及解剖學の講義をなす赴きを述べられ且曰く生理と解剖は恰も地理と歷史の關係に

於けるか如しと延いて人体の組織に於ける細胞を詳細に講せられ次にドクトル朝山義六君には壯快の辨を以て演說せられ終りて諸務の報告役員の改撰を擧行せしが茶菓の饗應ありて午后五時散會せり

役員改撰の結果左の如し

| | | |
|---|---|---|
| 會長 | 二十九點 | 仁禮すか子 |
| 副會長 | 四十五點 | 濱尾作子 |
| 幹事 | 五十四點 | 濱田拾子 |
| 仝 | 三十九點 | 西　靜子 |
| 仝 | 三十三點 | 鳩山春子 |
| 仝 | 二十四點 | 加藤常子 |
| 仝 | 二十一點 | 北澤信子 |
| 仝 | 十二點 | 坪井國子 |
| 仝 | 十二點 | 高木かう子 |

| | | |
|---|---|---|
| 評議員 | 五十九點 | 高木富子 |
| 仝 | 五十八點 | 西　升子 |
| 仝 | 五十七點 | 緒方悅子 |
| 仝 | 五十七點 | 中濱芳子 |
| 仝 | 五十七點 | 片山龜子 |
| 仝 | 五十七點 | 菊池いち子 |
| 仝 | 五十五點 | 加藤鈴子 |
| 仝 | 五十五點 | 宮本樂子 |
| 仝 | 五十四點 | 丹波さた子 |
| 仝 | 五十點 | 平田よし子 |
| 仝 | 五十三點 | 岡田德子 |
| 仝 | 四十七點 | 中村春子 |
| 仝 | 四十六點 | 榊　幸子 |
| 仝 | 四十六點 | 田中いよ子 |
| 仝 | 四十四點 | 三宅藤子 |
| 仝 | 十六點 | 南部隈子 |
| 仝 | 十六點 | 馬渡玉子 |
| 仝 | 十四點 | 羽田三緒子 |
| 仝 | 十三點 | 上野幾子 |
| 仝 | 十二點 | 小笠原純子 |



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

右役員改撰後役員會に於て以後會務の分掌は左の幹事諸氏に於て擔當せらるゝことに決せり

會計 濱田拾子 高木こう子

編輯 嶋山春子 坪井國子

庶務 北澤信子 加藤常子 西靜子

## 廣告

◎婦人衛生會に於ける收支決算左の如し

自明治廿七年九月至仝二十八年二月收支決算

收入

一金六百〇四圓四拾八錢八厘五毛

內譯

| | |
|---|---|
| 金參百〇六圓五拾七錢 | 會費集高 |
| 金百拾九圓 | 寄附金 |
| 金百四拾圓 | 三井銀行引戻金 |
| 金參拾圓九拾一錢八厘五毛 | 綿代 |
| 金八圓 | 三井銀行預金利子 |

支出

一金五百七拾七圓五拾六錢九厘五毛

內譯

| | |
|---|---|
| 金百拾九圓拾九錢八厘 | 雜誌印刷 |
| 金七圓拾貳錢 | 諸印刷 |
| 金貳圓五拾錢 | 會場費 |
| 金拾參圓五拾錢五厘 | 郵税 |
| 金參圓參拾四錢 | 通知端書 |
| 金拾貳圓五拾錢 | 速記料 |
| 金貳拾六圓七拾錢 | 會費雜誌通知集配手當 |
| 金參圓六拾錢 | 切拔通信料 |



Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

| | |
|---|---|
| 筆墨紙料 | 金六圓五拾八錢六厘 |
| 器具費 | 金貳拾五錢 |
| 雜誌編輯並事務給料 | 金四拾八圓 |
| 軍隊寄附綿入チヨッキ費用 | 金貳百參拾壹圓〇二錢九厘 |
| 北里青山兩博士歡迎會出金 | 金七圓 |
| 總會並に初會入費 | 金六圓八拾貳錢 |
| 雜費 | 金九圓四拾貳錢貳厘五毛 |
| 三井銀行預金 | 金八拾圓 |

收支差引

一金貳拾六圓九拾壹錢九厘　殘額

一金百八拾參圓　三井銀行預金

合計金貳百〇九圓九拾壹錢九厘　現在總額

◎三月より四月に至る入會者左の如し

◎幹事鳩山春子の紹介により

神田駿河臺鈴木町二十二番地　特別會員　加藤春路子

牛込佐土原町　通常會員　木内いそ子

小石川竹早町七十八番地　通常會員　林竹子

◎地方會員武富すみ子の紹介により

神奈川縣横順賀稲岡舘舍　通常會員　田尻とも子

◎地方會員中野悦子の紹介により

新潟縣學校通二番町二百卅八番戸　通常會員　丸山のふ子

新潟市學校町通二番町卅七番戸　通常會員　鳥居操子

新潟市上旭町通一番町四十六番戸　通常會員　福永けい子

新潟市上旭町通一番町卅四番戸　通常會員　中原てい子

新潟市東仲通二番町一番戸　通常會員　古閑初瀬子

◎通常會員室ともを子の紹介により

芝西久保八幡町九番地室方　通常會員　金子きみ子



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

赤坂田町七丁目三番地秋山方
通常會員 福井政子

◉通常會員大澤作子の紹介により
牛込岩戸町十三番地通常會員 前原とめ子

◉會長仁禮すが子の紹介により
芝西久保三田壹丁目二十八番地
通常會員伯爵夫人 松方政子
麻布竹谷町六番地 通常會員 川上やす子
麴町下二番町七十一番地
通常會員 千田米子
麴町中六番町二番地通常會員 與倉幹子
麴町中六番町十四番地通常會員 財部さわ子
麻布東町二十四番地通常會員 有馬幾子
麻布市兵衛町二丁目八十九番地
通常會員 松平芳子
芝三田綱町十壹番地通常會員 志岐千代子
志岐榮子
赤坂氷川町壹番地 通常會員 新山雅樂子
牛込二十騎町十七番地通常會員 勝田久米子

◉事務所へ申込により
日本橋濱町二丁目十七番地
產婆看護學校內 通常會員 土屋さく子
第一醫院 鈴木れん子
第一醫院 谷千代子

◉小林つる子の紹介により
第二醫院 小川つる子

轉居

芝公園十四號地十四號へ 木村ふみ子
麴町飯田町五丁目三十番地へ 高橋清子
青森縣東津輕郡浦町村九十五番地へ 有田なを子
芝公園五十號地二番へ 石河里子
神奈川縣横須賀稻岡舘舍十三號へ 武富すみ子
赤坂表町四丁目四番地へ 大久保君子
高知縣帶屋町町田旦藏方へ 野並三種子
熊本縣新屋敷町水道端一番町へ 吉田ふさ子
麴町下二番町六十九番地へ 日高りき子
淺草下平右衛門町十四番地へ 小林千代子

大日本婦人衛生會




Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

# 私立大日本婦人衛生會規則

第一條 凡本會の目的は汎く婦女子をして人生の健康を保持するの方法を講究し衛生上の智識を開發せしめ隨て社會全般の幸福を增進するにあり

第二條 本會は私立大日本婦人衛生會と稱し之を東京に置く

第三條 本會の會員たらんと欲する者は身分の尊卑を問はず何人にても入會するとを得

第四條 會員たらんと欲する者は族籍住所姓名を記し本會事務所へ申込ある可し

但事務所は下谷區練塀町四十三番地に置く

第五條 本會々員を分て終身會員特別會員通常會員の三類とし共に會費金を納むる者とす

但終身會員は一時に金拾圓以上を納め特別會員は一年金二圓四拾錢以上を納め通常會員は同金壹圓二拾錢を納むる者とす尤も會員中書生及其他事故ある者は唯雜誌料として同六拾錢を納めしむ

第六條 男子にして本會の主義を贊成する者は之を贊成員とす尤も會費は本會員に同し

但本會に功勞ある者は役員の協議を以て終身贊成會員(無會費)とするとも有る可し

第七條 會本に推戴員を置き其中より總裁一名を奉す推戴員は皇族の御息所等に之を申請するものとす

第八條 本會は左の役員を置く 會長一名 副會長一名 幹事十名 評議員二十名 書記若干名

第九條 會長副會長及幹事評議員は會員の投票を以て之を撰擧し書記は幹事の推撰により會長之を命ず

但書記は都合により會員外の婦人又は男子に托するとあるべし

第十條 會長は本會を總理し副會長は會長を補佐し又は其代理をなし幹事は會長の命を受けて會務を處理し評議員は重要なる會務を評議し書記は役員の命に從て諸記錄及雜務を掌る

但幹事の分課を設けて第一 會計 第二 編輯出版 第三 庶務とす

第十一條 會長の見込を以て右役員外に會員中より臨時に指名委員を置くとあるべし

第十二條 會長副會長及幹事評議員の任期は一年とす尤も再撰するも妨げなし

第十三條 會長副會長及幹事評議員は無給料とし書記は相當の報酬を給す

第十四條 本會の集會は七月八月を除くの外每月一回として通常第一土曜日午後一時より之を開く

第十五條 每會學識經驗ある者を聘し講義演說を囑し本會々員の演說と共に之を筆記して本會雜誌に掲載し每月各一册つゝ無代價にて之を會員に頒付するものとす

但し演說の間に談話を交ゆる事あるべし

第十六條 會員は家族の婦女子又は知己の婦人を本會々場に誘致して傍聽せしむるとを得

第十七條 講義演說の際男子の傍聽を禁ず

但會員に緣故ある男子は此限にあらず

第十八條 本會の所有金は本會の名義を以て三井銀行に預くるものとす

但些少の金額は日々の費用支出の爲め事

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

明治二十一年二月二十八日内務省許可

務所に引出置を得

第十九條 會計の收支は總て會計課幹事の撿印を要す

第二十條 會員又は會員外より金圓若くは書籍物品等を寄贈あるときは本會より謝狀を送り且寄贈の品目及其人の姓名を本會雜誌に載せ報告するものとす

第廿一條 會費は郵便小爲替にて東京下谷郵便局へ向け振出しある可し

但不得止場合には郵便劵を代用するも妨けなし尤も一割增とす

第廿二條 入會員には會員證を附與すべきに付郵便にて申込の者は郵便劵二錢を添ふ可し

第廿三條 每年三月九月の總會に於て會計の收支庶務の概略幷に會員の增減等を報告す可し且規則改正の案あれば之を議定するものとす尤も議定は總て多數決とし可否半數なるときは會長之を決す

但至急規則の改正を要する事あるときは豫め會員に報して臨時に之を爲すとを得

第廿四條 每年三月の總會に於て役員の撰擧をなすものとす

第廿五條 規則の範圍内に於て役員の評議を以て其細則を設くることを得

第廿六條 各地方にて發起者十人以上ある者は支會を設くることを得

但其規則は本會の規則に抵觸せざる樣起草し本會役員の認可を經へし

第廿七條 本會の集會場は時々報知する者とす

(以下次號)


醫科大學卒業

神田區北神保町

拾壹番地

產婆 秋間たい



明治廿八年四月三日印刷

明治廿八年四月五日發行

發行所 東京下谷區練塀町四十三番地 大日本私立婦人衛生會

編輯兼發行者 東京牛込區矢來町三番地 田中德三郎

印刷者 同 神田區小柳町十三番地 小高良造

印刷所 同 神田旅籠町貳丁目拾一番地 廣業館



明治廿六年四月四日遞信省認可 第一金曜日發行 (定價金拾錢)